

令和8年度 野田女子高等学校 3学年シラバス

目 次

<教科>	<科目名>	<対象生徒>	<ページ>
国 語	文学国語	全科	1
地理歴史	地理総合	全科	2
数 学	数 学 B	全科	4
理 科	化学基礎	全科	6
保健体育	体 育	全科	7
芸 術	音 楽 II	生活文化科 音楽選択者	10
	美 術 II	生活文化科 美術選択者	11
	書 道 II	生活文化科 書道選択者	12
外 国 語	英語コミュニケーションII	生活文化科・食物科	14
	論理・表現 I	衛生看護科	16
家 庭	課題研究	生活文化科	18
	消費生活	生活文化科	19
	保育基礎	生活文化科 保育教養類型	20
	保育実践	生活文化科 保育教養類型	21
	ファッション造形	生活文化科 服飾文化類型	22
	生活文化	生活文化科	23
	課題研究	食物科	24
	食 文 化	食物科	25
	調 理	食物科	26
	栄 養	食物科	28
	食 品	食物科	29
	食品衛生	食物科	30
	公衆衛生	食物科	32
看 護	成人看護	衛生看護科	33
	小児看護	衛生看護科	35
	母性看護	衛生看護科	37
	在宅看護	衛生看護科	39
	看護臨地実習	衛生看護科	41
	看護情報	衛生看護科	43
<参考資料>	令和6年度入学生教育課程表（各科）		

科目	文学国語	単位	2単位	学年	3学年
使用教科書	新編 文学国語(大修館書店)		副教材等	常用漢字ダブルクリア(尚文出版)	

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。
---------	---

評価の観点		
A:知識・技能	B:思考・判断・表現	C:主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する深めるようすることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	○「鉄道員」 (現代文:小説) ○「桐壺」・「若紫」 (古文:物語) ○「飛ぶことを知っている魂」 (現代文:随想)	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の設定の仕方を通して登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。 ・古文を読むことに興味をもち、積極的に読みに慣れようとしている。 ・登場人物の行動や心情を読み取ろうとしている。 ・話のおもしろさや教訓をとらえる。 ・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな構成や形式、表現技法を確認し、その効果について考える。 ・具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・文体の特徴や比喩の効果について考える。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2	○「短歌」 (現代文:短歌) ○「四面楚歌」 (漢文:史記) ○「離さない」 (現代文:小説)	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌のきまりや、修辞法について理解する。 ・作者の視点や発想に注意して短歌を味わう。 ・漢文訓読町の文章の魅力を味わう。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・登場人物の描写から、場面ごとの心情の変化を読み取る。 ・作品の設定を的確に捉え、寓異性を読み取る。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
3	○「こころ」 (現代文:小説) ○「私たちの黄色」他 (現代文:小説)	<ul style="list-style-type: none"> ・心情や情景描写に注意して読む。 ・時代背景や登場人物の考え方、考え方に読み取ろうとしている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

科目	地理総合	単位	2	学年	3年
使用教科書	私たちの地理総合(山川出版社) 新詳高等地図(帝国書院)	副教材等		私たちの地理総合ワークブック(山川出版)	

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用し多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
一学期	1章 1節球面上の世界と地図の活用 2節国家間の結びつき	緯度と経度/時差/図法/国家の三要素/日本の領域/主題図とGIS 国と国とのつながり/貿易/交通・通信/観光	○ ○	○ ○	○ ○	a 単元テスト 定期考査 演習ノート b 定期考査 単元テスト 演習ノート レポート c 授業態度
二学期	2章 1節自然環境と生活文化	地形のなりたち 山地と平野/海岸の地形 気候	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	提出物 単元テスト・ 定期考査 の反省 調査・研究 の成果物

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
二 学 期	2節多文化共生と生 活文化	宗教/言語	○	○	○	a 単元テスト 定期考査 演習ノート b 定期考査 単元テスト 演習ノート レポート c 授業態度 提出物 単元テスト・ 定期考査 の反省 調査・研究 の成果物
	3節産業の発展と生 活文化	農業/工業	○	○	○	
	3章地球的課題と国 際協力					
	1節人口問題	世界の人口問題/人口移動と難民問題	○	○	○	
	2節食糧問題	世界の食糧問題/世界の水問題	○	○	○	
	3節居住・都市問題	世界の居住・都市問題/人口集中による都市問題	○	○	○	
	4節資源・エネルギー 問題	エネルギー資源の産出・消費と課題/再生エネルギ ー	○	○	○	
	5節地球環境問題	地球温暖化	○	○	○	
三 学 期	4節生活圏の諸課題					
	1節自然環境と防災	日本の地形・気候/気象災害と防災/火山の噴火と 防災/地震・津波と防災/都市特有の災害と防災/ 防災・減災への心構え	○	○	○	
	2節持続可能な地域 づくり	生活圏の課題の発見		○	○	

科目	数学B	単位	2	学年	生活文化科・食物科・衛生看護科3年
使用教科書	最新数学B(数研出版)		副教材等		

学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているかどうか。	数学を活用して事象を論理的の考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度が養われているかどうか。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 数列 第1節 数列とその和 第2節 漸化式と数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求める。 いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解する。 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する。 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりする。 数学的帰納法について理解する。 自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。 	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ステージノート提出 テスト訂正提出 中間考査 期末考査

2	第2章 統計的な推測	<ul style="list-style-type: none"> ・確率変数と確率分布について理解する。 ・二項分布と正規分布の性質や特徴について理解する。 ・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。 ・標本調査の考え方について理解を深める。 ・正規分布を用いた区間推定および仮説検定の方法を理解する。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ステージノート提出 ・テスト訂正提出 ・課題考査 ・中間考査 ・期末考査
	第1節 確率分布		○		○	
	第2節 統計的な推測			○		

		<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察する。 		○	○	
3	第3章 数学と社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解する。 ・日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知る。 ・日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現する。 ・数学化した問題の特徴を見だし、解決する。 ・問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察する。 ・解決過程を振り返り、そこで用いた方法を一般化して、他の事象に活用する。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ステージノート提出 ・テスト訂正提出 ・課題考査 ・学年末考査
			○		○	
				○	○	

科目	化学基礎	単位	2	学年	生活文化科・食物科・衛生看護科3年
使用教科書	新編 化学基礎(数研出版)		副教材等	新編 化学基礎 準拠 サポートノート(数研出版)	

学習の到達目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物について理解する。 物質は種々の元素から成り立ち、元素は元素記号で表されることを理解する。 物質には固体・液体・気体の3つの状態があること、分子の熱運動がもたっていることを理解する。 原子の構造と同位体の存在を理解する。 イオンの電子配置を理解する。 周期律と、それを一覧にした周期表の特性を理解する。 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト ノート提出 実験レポート 定期考査
2	第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオン結晶 2 共有結合と分子・分子からなる物質 3 共有結合の結晶 4 金属結合と金属結晶 第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応 1 酸と塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 共有結合からなる物質の表し方として分子式をはじめ電子式や構造式を学ぶ。 分子結晶や共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを学ぶ。 金属結合について理解する。 原子量という概念を理解する。 酸や塩基の定義、価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 水溶液の酸性や塩基性の程度をpHで表すことを理解する。 酸と塩基が中和するときの量的関係、滴定操作を理解する。 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト ノート提出 実験レポート 定期考査
3	第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の定義を理解する。 酸化剤や還元剤について理解する。 金属のイオン化傾向と日常との関係を理解する。 	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 実験レポート 定期考査

科目	体育	単位	3単位	学年	3年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店) アクティブスポーツ女子版(大修館書店)	
学習の到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力を図るための資質・能力を培うことができるようにする。				
評価の観点					
a,知識・技能		b,思考・判断・表現		c,主体的に学習に取り組む態度	
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けてようとしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養おうとしている。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。	

学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
・体づくり運動	<p>体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などについて理解している。</p> <p>・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどなどしたり、健康・安全を確保したりしている</p>	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート ※体ほぐしの運動は技能評価を除く
・器械運動	<p>・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などについて理解している。</p> <p>・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。</p> <p>・鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。</p> <p>・平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。</p> <p>・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> <p>・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者</p>	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 技能観察

	<p>に伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 			○		
<p>・陸上競技 (短距離走) (リレー) (長距離走)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走の高いスピードを維持して速く走ることやバトンの受渡しで次走者と前走者の距離を長くすることができる。 ・長距離走では、ペースの変化に対応して走ることができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	○	<p>授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト</p>
<p>・球技 ゴール型 (バスケットボール・サッカー) ネット型 (バレーボール・バドミントン) ベースボール型 (ソフトボール)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。 ・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	○	<p>授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト</p>
<p>・武道 (柔道)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などについて理解している。 ・柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他 	○	○	○	○	<p>授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト</p>

	<p>者に伝えている。</p> <p>・武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>			○	ルール等 テスト
・ダンス (リズム ダンス)	<p>・ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方などを理解している。</p> <p>・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる。</p> <p>・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>・ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>	○		○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト
・体育理論	<p>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○		○	授業態度の観察 保健体育ノート レポート 小テスト ※技能評価を除く

科目	音楽Ⅱ	単位	2	学年	3年(生活文化科)
使用教科書	高校生の音楽2(教育芸術社)		副教材等	なし	

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の学習の流れ、内容及び評価の方法について 2 歌唱による表現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲種に応じた発声の工夫 ・ 視唱力の伸長 ・ 歌詞及び曲想の把握と表現の工夫 ・ 合唱における表現の工夫 3 歌舞伎の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の活動の流れに見通しや関心を持ち、意欲的に取り組もうとすることができる。 ・ 視唱力を伸ばしながら、曲想に応じた発声や表現の工夫ができる。 ・ 合唱における表現を工夫し、その楽しさを味わうことができる。 ・ 歌舞伎に触れ、諸外国の舞台芸術との違いや魅力を味わい、関心を高めることができる。 	○	○	○	授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト
2	4 器楽によるアンサンブル <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の楽器を使った曲練習とアンサンブル ・ 鍵盤楽器の演奏方法とその基礎の習得 ・ 曲の構成及び曲想を生かした楽器、パートの工夫 ・ グループに分かれての演奏練習、発表 5 音楽の魅力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会や文化とのかかわり ・ 他芸術とのかかわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラシックギターや、ピアノ等に親しみ、基礎的な奏法を身につけ、個人やグループでのアンサンブル演奏に取り組むことができる。 ・ 記譜されている楽語等を理解し、表現を工夫することができる。 ・ 音楽とかわる歴史や文化など様々なことを通じて、楽曲の魅力を多方面から探り、感じることで、積極的、主体的に鑑賞する態度を養う。 	○	○	○	授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト
3	6 学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間の取り組みのまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことを振り返り、美しさを感じる感性の大切さに気付き、生活の中で音楽を愛好し続ける態度へつなげることができる。 		○	○	授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト

科目	美術Ⅱ	単位	2	学年	3年(生活文化科)
使用教科書	高校生の美術2(日本文教出版)		副教材等		

学習の到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 表現方法を創意工夫し、個性豊で創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 デッサン ① 石膏像を描く ② 友人を描く 2 版画 ① 紙版を使って ② 樹脂版を使って ③ エンボス作り	<ul style="list-style-type: none"> 画用木炭を使うことにより、表現の幅の広さを体験することができる。 版画の様々な方法論や技法を経験することによって、多彩な表現の可能性を発見することができる。 	○	○	○	授業態度 ワークシート 作品
2	3 人形制作 ① 資料研究をする ② ラフスケッチをする ③ 粘土による造形に取り組む ④ 多様な素材との組み合わせを考える ⑤ 見せ方を考える 4 キャンドル制作	<ul style="list-style-type: none"> 身近で感情移入しやすいものづくりをすることによって、プロセスを楽しむ態度を養う。 	○	○	○	授業態度 ワークシート 作品
3	5 卒業記念自画像 ① パステルで自画像を描く ② オリジナル額縁を作る ③ 完成	<ul style="list-style-type: none"> 短時間で身近な材料を使い手軽に自分を記録することができる。 	○	○	○	授業態度 ワークシート 作品

科目	書道Ⅱ	単位	2	学年	3年(生活文化科)
使用教科書	書Ⅱ(教育図書)		副教材等		

学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 書表現の方法や形式、書表現の多様性について理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 漢字仮名交じりの書 ・硬筆による表現 南日本硬筆展出品	<ul style="list-style-type: none"> 漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身に付けている。 主体的に漢字仮名交じりの書の表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○		○	授業態度 ワークシート 作品
	2 漢字の書 篆書 ・石鼓文 ・金文	<ul style="list-style-type: none"> 用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	○	
	3 漢字の書 隸書 ・乙瑛碑 ・居延漢簡	<ul style="list-style-type: none"> 用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	○	
	4 漢字の書 草書 ・書譜 ・十七帖	<ul style="list-style-type: none"> 用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	○	
	5 漢字の書 行書 ・集王聖教序 ・祭姪稿	<ul style="list-style-type: none"> 用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 	○			

	<p>6 漢字の書 楷書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皇甫誕碑 ・顔勤礼碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 ・主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 ・主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	
2	<p>7 漢字の書 刻字</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏ボード ・半紙展出品 <p>8 漢字の書 創作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭展示作品制作 <p>9 漢字仮名交じりの書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 ・主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 ・主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身に付けている。 ・目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身に付けている。 ・主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	授業態度 ワークシート 作品
3	<p>10 仮名の書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高野切第一種 ・三色紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出され書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し、理解している。 ・主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	授業態度 ワークシート 作品

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ
単位	4	学年	3年（食物科）
教科書・教材等	教科書『Amity English CommunicationⅡ』（開隆堂出版）、辞書、ワークシート		

学習の到達目標

- ・日常的・社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやりとりや、聞いたり読んだりしたことを基に、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。
- ・日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。

評価の観点と規準

	a 知識・技能	b 思考力・判断力・表現力	c 主体的に学習に取り組む態度
観 点	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
規 準	・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現、音声等を理解している。 ・日常生活の話題についての情報や考えを、話して伝える技能を身に付けている。	日常生活のさまざまな場面において、相手の情報や考えを理解しながら、自分の情報や考えをよく理解してもらえるように、時には理由とともに伝えて話している。	日常生活のさまざまな場面において、相手の情報や考えを理解しながら、自分の情報や考えをよく理解してもらえるように工夫している。また、必要があれば改善するなど、粘り強く取り組んでいる。

年間の学習計画

学期	月	考 査 範 囲	学 習 項 目	学 習 内 容	評 価 の 観 点		
					a	b	c
第 1 学 期	4		オリエンテーション 休日課題への取り組み方確認	・到達目標や内容、評価の方法を理解する。 ・休日課題問題集への取り組み方を確認する。	/	/	/
	4 ・ 5	中 間 考 査	Lesson1 Okinawa	・be 動詞・一般動詞の現在形や助動詞を理解する。 ・旅行で行きたい場所を紹介する。	○	○	○
			Lesson2 The History of Japanese Food	・be 動詞・一般動詞の過去形や動名詞を理解する。 ・友だちの好きな食べ物について紹介する。	○	○	○
	6 ・ 7	期 末 考 査	Lesson3 Volunteer Work	・不定詞や受動態を理解する。 ・参加したいボランティアについて、考えを伝える。	○	○	○
			Lesson4 Gacha-gacha	・SVOO の文や SVOC の文を理解する。 ・ガチャガチャにあったらうれしいものを説明する。	○	○	○
		Lesson5 Interesting Aquariums	・形式主語 it や形式目的語 it を用いた文を理解する。 ・水族館と動物園のどちらが好きか、理由を述べる。	○	○	○	

第2学期	9・10	中間 考 査	Lesson6 The Relay of Ahmed's Life	・知覚動詞や使役動詞を理解する。 ・パレスチナ・イスラエル問題について意見を述べる。	○	○	○
			COMMUNICATE+ 1	・電話やメールで、考えや気持ちをやり取りする。	○	○	○
			Lesson7 Artificial Intelligence	・接続詞や前置詞の使用方法を理解する。 ・AI ロボットについて、絵を使って説明する。	○	○	○
	10・11・12	期 末 考 査	Lesson8 The Mystery of Colors	・現在完了や現在完了進行形を理解する。 ・写っている果物の色について、考えを説明する	○	○	○
			FOCUS+ 1	・文法項目の復習をする。 (形式主語・目的語／知覚動詞・使役動詞など)	/	/	/
			Lesson9 Street Performers	・分詞の形容詞的用法や分詞構文を理解する。 ・好きなミュージシャンや好きな曲について、考えや気持ちを書いて伝える。	○	○	○
第3学期	1・2・3	卒 業 考 査	Lesson10 The Culture of Selfies	・関係代名詞（制限用法／非制限用法）を理解する。 ・身近な人の似顔絵を描いて、考えや気持ちを述べる。	○	○	○
			Lesson11 Finland	・関係副詞を理解する。 ・フィンランド製のマグカップの魅力について述べる。	○	○	○
			Lesson12 In Order to Spend Happy Life	・仮定法過去、仮定法過去完了を理解する。 ・過去の出来事に反する願望について表現する。	○	○	○
			Reading Cremona	・クレモナ在住の横山令奈さんの活躍を読み取る。	○	○	○
			FOCUS+ 2	・文法項目の復習をする。 (分詞の形容詞的用法・分詞構文／関係代名詞など)	/	/	/
			COMMUNICATE+ 2	・レストランでのやり取りができるようにする。	○	○	○

課題・提出物

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1. レッソンの予習、復習、授業で使用するノート・ファイル | 2. 休日課題（問題集 Baton Pass）の提出 |
| 3. 長期休業中の課題の提出 | 4. その他（パフォーマンステストなど） |

評価方法

定期考査・出席状況・課題考査・小テスト・課題の提出状況や活動への参加状況を基に評価する。定期考査を年5回、課題考査を2回行う。また、学期に1～2回程度、授業中にパフォーマンステストを行う。基礎力測定診断や課題考査では、未読の文章を出題することもある。「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域を総合的に評価する。

教科	外国語（英語）	科目	論理・表現 I
単位	2	学年	3 学年（生活文化科・衛生看護科）
教科書・教材等	教科書：VISTA Logic Expressions I，辞書，ワークシート		
目 標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</p> <p>【4 技能別目標】</p> <p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。（話すこと）</p> <p>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。（書くこと）</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。（話すこと・書くこと）</p>		

学期別到達目標

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 英語の仕組みや言語の働き等を身につけ、運用することができる。 教科書等の内容について、順序立てて英語で説明することができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 絵などに表された出来事や位置関係等を英語で描写することができる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等の内容について、自分の意見を英語で書いたり、述べたりすることができる。 先生やALTからの英語の質問に英語で応答できる。

評価の観点

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観 点	・ 日常的な話題や社会的な話題について、言語やその運用についての知識を身につけている。	・ 自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、適切な英語を表現することができる。	・ コミュニケーション活動に関心を持ち、積極的に言語活動を行うとともに、学んだことを実際に使用して、自己の技能向上のために取り組んでいる。
規 準	<p>(ア) 自分の意見を伝えるために必要となる語句や文、対話の展開などの表現を理解している。</p> <p>(イ) 自分の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>(ア) リズムやイントネーション、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話している。</p> <p>(イ) 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書いている。</p> <p>(ウ) 書いた内容を再度読み返し、相手に伝わる表現をしている。</p>	<p>(ア) 自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(イ) 自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように工夫して話して伝え合おうとしている。</p>

年間の学習計画

学 期	月	考 査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評 価 の 観 点		
					①	②	③
第 1 学 期	4・5	中 間 考 査	オリエンテーション	・ 到達目標や内容、評価の方法を理解する。	○		○
			Let's Start ①～④ [①アルファベット～④語順]	・ 英語の品詞について理解する。 ・ 英文理解における語順の大切さを理解する。	○		○
			Lesson1 Bouldering? How Nice! ボルダリング? いいね!!	・ 現在形 (be 動詞、一般動詞) について理解する。 ・ 自分のことを英語で紹介する。	○	○	○
			Lesson 2 Famous People この人は何をした人?	・ 過去形 (be 動詞、一般動詞) について理解する。 ・ 発表の始まりと終わりの表現に慣れる。	○	○	○
			Lesson 3 Aquarium Adventure 今、クラゲに夢中だよ!	・ 現在進行形・過去進行形について理解する。 ・ 今していることを SNS で送れるようにする。	○	○	○
			Gトレ1 Lesson 1~3	・ 文法事項や語法に習熟する。	○		○
			Activity Station 1	・ 英語のやりとりのコツに慣れる。	○	○	○
			Daily Conversation 1	・ 買い物をするときの表現を知り、対話する。	○	○	○
6	・ 期		Lesson 4 My Summer Plan JAXAへ行くよ	・ 未来表現について理解する。 ・ 夏休みの予定を英語で発表する。	○	○	○

第1学期	7	未 考 査	Activity Station 1	・英語のやりとりのコツに慣れる。	○	○	○
			Lesson 5 UFO Sightings キミはUFOを見たことがあるか?!	・現在完了形（経験/継続）について理解する。 ・自分の経験について英語で紹介する。	○	○	○
			Lesson 6 Homestay ホームステイにチャレンジ!	・現在完了形（完了/現在完了進行形）を理解する。 ・ホストファミリーへ、メールを書く。	○	○	○
			Gトレ2 Lesson 4~6	・文法事項や語法に習熟する。	○		○
			Activity Station 2	・ライティングのコツを学ぶ。	○	○	○
			Daily Conversation 2	・レストランで使う会話表現を知り、対話する。	○	○	○
第2学期	9 ・ 10	中 間 考 査	Lesson 7 Which Is Faster? いろいろなものを比べると...	・比較級・最上級について理解する。 ・絵を比較して、比較級・最上級の文を作る。	○	○	○
			Lesson 8 Great Inventions あなたが選ぶすぐれた発明品は?!	・助動詞について理解する。 ・すぐれた発明品について、発表する。	○	○	○
			Lesson 9 Save the Earth ホテルが住める地球を!	・助動詞について理解する。環境（地域）問題についてホームページを作る練習をする。	○	○	○
			Gトレ3 Lesson 7~9	・文法事項や語法に習熟する。	○		○
			Activity Station 3	・スピーチとプレゼンテーションのコツを学ぶ。	○	○	○
	10 ・ 11	期 末 考 査	Daily Conversation 3	・道案内の表現を理解し、対話する。	○	○	○
			Lesson 10 Masterpiece 芸術はこころの栄養!!	・受動態について理解する。様々な芸術作品について自分の意見を述べる。	○	○	○
			Lesson 11 My Future Job あなたは将来どんな人?	・不定詞（名詞用法）、動名詞について理解する。 ・自分がなりたい職業について発表する。	○	○	○
			Lesson 12 World Heritage モン・サン・ミ歇尔への旅	・不定詞（副詞的用法/形容詞的用法）を理解する。 ・世界遺産についてホームページを作る練習をする。	○	○	○
			Gトレ4 Lesson 10~12	・文法事項や語法に習熟する。	○		○
	12		Activity Station 4	・ディスカッションのコツについて学ぶ。	○	○	○
			Daily Conversation 4	・病気や怪我をしたときの表現を学ぶ。	○	○	○
第3学期	1 ・ 2 ・ 3	卒 業 考 査	Lesson 13 Pictogram トイレはどこ?	・現在分詞と過去分詞の働きを理解する。 ・図表を説明する。	○	○	○
			Lesson 14 Cool Japan ふるしきって、カッコイイね!	・関係代名詞を理解する。 ・日本文化を海外へ発信することを学ぶ。	○	○	○
			Lesson 15 What's SDGs? 地球上のすべての人が幸せに暮らすために!	・仮定法を理解する。 ・国際協力についての意見・感想を述べる。	○	○	○
			Gトレ5 Lesson 13~15	・文法事項や語法に習熟する。	○		○
			Activity Station 5	・ディベートのコツについて学ぶ。	○	○	

課題・提出物

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. ノートに予習をする。 | 4. 休日課題（問題集）の提出 |
| 2. 授業で扱うワークシート | 5. 長期休業中の課題の提出 |
| 3. 小テスト（レッスンに応じて授業中実施） | |

評価方法

各学期、定期考査・出席状況・課題考査（2・3学期）・小テスト・課題の提出状況や活動への参加状況を基に評価する。定期考査は年3回、課題考査を2回行い、その他必要に応じて授業中にインタビューテストやパフォーマンステストを行い評価する。課題考査では、未読の文章を出題することもある。論理・表現Iでは主に「話す」「書く」の2つの技能を評価する。

科目	課題研究	単位	2単位	学年	3学年
使用教科書	なし		副教材等	なし	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技術	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人としての解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指し自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	知	思	態	評価方法
1	課題の設定 実施計画の立案 課題の調査・研究・実験	○オリエンテーション 家庭科で学習した知識・技術を活かし、テーマを設定することを理解する。 ○年間計画の立案 ○実態把握 ・テーマを決定する。 ・テーマ別に実態を調査し、理解を深める。 ・調査結果を基に考察し、レポートにまとめ、意見交換を行う ○実践 ・課題を解決する方策を考え、活動する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・授業態度 ・ワークシート ・レポート
2	課題の調査、研究、実験	○実践 ・問題点や手順等を見直し、実践活動を行う。 ・調査研究活動の経過をレポートにまとめ、中間報告を行う。 ○文化祭発表・展示	○ ○	○ ○	○ ○	・授業態度 ・ワークシート ・レポート ・発表態度
3	研究成果のまとめ	○発表準備 ・プレゼンテーション準備 ・まとめ及び資料準備 ・成果発表会及び報告冊子作成 ○プレゼンテーション作成 ・研究内容まとめ ○研究成果の発表会を実施する ○ポートフォリオ作成 ・記録写真 ・実習日誌のまとめと整理	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・授業態度 ・ワークシート ・レポート ・プレゼンテーション ・発表態度

科目	消費生活	単位	2単位	学年	3学年
使用教科書	消費生活(文部科学省)		副教材等		

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、消費者の視点に基づく豊かな消費生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点をもった職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 社会を支える消費者 (1) 消費生活の役割 (2) 生涯の計画と管理 (3) 社会の変化と消費生活の変化 5 消費者契約と法 (1) 生活の中の契約 (2) 契約と責任 (3) 複雑・多様化する販売方法と悪質商法 (4) 消費者取引と関連法 (5) 電子商取引と消費生活 (6) 多様化する支払方法と資金調達 (7) グローバル化と消費生活	・経済社会の動向を概観し、消費生活が変化している状況を理解する。 ・生涯を見通した経済生活の計画と管理について理解し、考察できる。 ・消費生活や経済設計について自ら学ぼうとしている。 ・経済社会の変化に伴って、流通・販売方法や決算手段が多様化し、発生する消費者問題が複雑化している現状を理解する。 ・消費生活に関する課題を発見し、その解決に向けて考察できる。 ・経済社会の動向と消費生活について自ら学び、学習に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○ ○ ○	○ ○	○ ○	ワークシート 単元テスト
2	2 消費者被害と消費者の権利・責任 (1) 消費者が受ける不当な不利益 (2) 消費者の権利確立の方策 3 消費生活の安全と自由 (1) 消費生活の安全の確保 (2) 消費生活の自由の確保 (3) 信頼できる情報の確保 4 消費者の自立支援 (1) 支援の必要性 (2) 事業者からの支援	・消費者の権利の実現の重要性を理解し、関連する情報を収集・整理できる。 ・消費者の権利と責任について自ら学ぼうとしている。 ・商品やサービスの情報の重要性を理解する。 ・商品・サービスを適切に消費する上での課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・消費生活演習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・消費者と行政、企業との関わり方や連携の在り方を理解し、課題を発見し、解決に向けて考察・工夫する。 ・消費者の支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○ ○ ○	○ ○	○ ○	ワークシート 単元テスト レポート
3	6 環境と消費者 (1) 地球環境問題と私たちの生活 (2) 消費の価値観の変化と環境問題 (3) 消費の拡大が地球環境に与える影響 (4) 持続可能な社会への枠組み (5) 環境問題と商品・サービスの選択と利用 (6) エシカル消費 (7) 持続可能なライフスタイル	・環境に配慮したライフスタイルへの取組の重要性を理解し、関連する情報を収集・整理する。 ・消費生活上の環境問題について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・持続可能な社会を目指したライフスタイルについて自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	ワークシート 単元テスト

科目	保育基礎	単位	2単位	学年	3年生
使用教科書	保育基礎（実教出版）	副教材等	全国高等学校家庭科保育検定 過去問題集 （全国高等学校家庭科教育振興会）		

学習の到達目標	子どもの発達の特長や発達過程，保育などに関する知識と技術を習得し，子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。
---------	--

評価の観点		
a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法，子どもの発達や生活の特徴について理解し，関連する技術を身に付けている。	子どもを取り巻く課題を発見し，保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	時間数	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	10	○子どもの生活と養護 ウ健康管理と事故防止	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活と養護について理解し，適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身に付ける。 子どもの生活と適切な養護について，課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。 子どもの生活と養護について自ら学び，保育に主体的・協働的に取り組む。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 授業態度 プリント 課題 調べ学習 作品 振り返り 実技テスト
	24	○子どもの福祉 ア児童観の変遷	<ul style="list-style-type: none"> 児童館の変遷や児童福祉の理念と制度について理解する。 	○	○	○	
	10	イ児童福祉の理念と関係法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉を支える場の役割について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。 				
	10	ウ子どもの福祉を支える場	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む。 				
	36	○子どもの文化 ア子どもの文化の意義	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの文化，遊びと表現活動について理解し，関連する技術を身に付ける。 	○	○	○	
	16	イ子どもの遊びと表現	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。 				
	10	ウ子どもの文化を支える場	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの文化について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む。 				
2							
3							

科目	保育実践	単位	6単位	学年	3年生
使用教科書	保育実践 (実教出版)	副教材等	「これだけは知ってほしい楽典はじめの一步」 「標準バイエルピアノ教則本」 「こどものうた200」		

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
子供の表現活動の意義と重要性を理解し、子供の様々な表現活動を促す技術を身に付けている。	子供の様々な表現活動について問題を見いだして課題を設定している。	子供の表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	時間数	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1							
2	170 50	○保育の活動計画と実習 ア保育の活動計画	<ul style="list-style-type: none"> 保育活動計画の重要性について理解する。 幼稚園、保育所、認定こども園等での様々な活動は、年間・期・月・週・日における指導計画に基づいて実践されていることを認識した上で、部分的な計画を作成することができるようにする。 ピアノやその他の楽器を用いた伴奏などを習得する。 	○ ○	○		<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 授業態度 プリント 課題 調べ学習 作品 振り返り 実技テスト
	80 40	イ保育実習 ○子育て支援と保育 ア子供・子育ての問題	<ul style="list-style-type: none"> 子供の発達や時期を考慮し、どのようなことを身に付けて欲しいかという具体的なねらいや内容を設定し、子供が興味や関心をもって主体的に関わり、その中で発達に必要な体験を積み重ねていくことができるような活動となるようにする。 少子化、家庭内暴力、子供の虐待、育児の不安や孤立感など、子供と家族を取り巻く社会や環境の様々な変化に伴う諸問題を取り上げ、子育て支援の意義と役割について理解する。 	○ ○	○ ○		
3	40 20	イ子育て支援のための各種施設	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の子育て支援関連施設の役割について扱い、地域子育て支援センターや児童館などが行う子育て支援に触れ、どのような支援が行われているか考える。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 授業態度 プリント 課題 調べ学習 作品 振り返り 実技テスト
	20	ウ子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 保育施設に入所している子供の保護者を対象とする子育て支援の意義と役割について扱い、専門機関との連携など、保育と密接に関連した保護者支援の方法について理解する。 		○	○	

科目	ファッション造形	単位	8単位	学年	3学年
使用教科書	ファッション造形(実教出版)		副教材等	家庭科問題集被服編(全国高等学校家庭科教育振興会)	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッション製品の創造的な製作を担う職業人として必要な資質・能力を身につける。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
被服構成の基礎、被服技法、被服材料の特徴について理解しているか。製作に関する理論と技術を理解し、計画にしたがって、能率的、創造的に製作できているか	被服の特徴を理解し、適切なデザイン、縫製、仕上げ方法等を選び、工夫し創造する能力を身につけているか。	被服の特徴を理解し、適切なデザイン、縫製、仕上げ方法等を選び、工夫し創造する能力を身につけているか。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 ファッション造形の要素 ア デザイン イ 構成技法 ウ 材料 エ 縫製	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに対してアイデアやイメージをまとめ、ファッション画等で表現する。 ・構成技法や材料及び縫製の総合的な知識と技術をデザインによって違うことを理解する。 	○	○	○	評価テスト 小テスト 実技テスト ドレス 創作作品 発表
	2 ドレス製作 ア デザインの選定 イ 材料の選択と取り扱い ウ パターンメイキング エ 裁断 オ 仮縫いと補正 カ 縫製 キ 仕上げ ク 着装					
2	3 洋服製作 ア デザインの選定 イ 材料の選択と取り扱い ウ パターンメイキング エ 裁断 オ 仮縫いと補正 カ 縫製 キ 仕上げ ク 着装	ジャケットまたはコートの製作 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに対してアイデアやイメージをまとめ、デザインを考える。 ・構成技法や材料及び縫製の総合的な知識と技術をデザインによって違うことを理解する。 ・着用目的、着用者の個性、流行などを考慮してデザインを選定し、それにふさわしい服飾材料を適切に選定することができる。 ・デザインに応じて美しく仕上げることができる。 	○	○	○	評価テスト 小テスト 実技テスト ジャケットまたはコート 創作作品
	3 ア デザインの選定 イ 材料の選択と取り扱い ウ パターンメイキング エ 裁断 オ 仮縫いと補正 カ 縫製 キ 仕上げ ク 着装					

科目	生活文化	単位	2単位	学年	3 学年
使用教科書	はじめる いけばな	学校茶道(華道)	副教材等	袱紗セット(茶道)	

学習の到達目標	国際社会の中で、日本の伝統文化を学び、理解することで、より広い視野に立ち考え、行動できる情操豊かな人材育成に努める。また、日本の伝統的な生活文化(華道・茶道・着付け)を学び、理解したうえで、家庭生活や職業に役立つ能力と態度を身につける。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
学習内容に関する基礎的・基本的知識や応用する力を身につけている。 基本的な技能を習得し、生活の充実と向上のために活用できる。	自ら考え、主体的に判断して課題を解決したり、創造したりすることができる能力を身につけ、的確に表現できる能力を身につけている。	学習内容に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
	○池坊 ・華道の成り立ちについて ・自由花 ・生花 (一種生、三種生)	花を生ける技術や知識を習得し、草木の育った背景を想像し、それぞれのよさを生かしながら自分自身の思いを込めて、生けることができるようになる。 季節の花を通して、季節の変化を敏感に感じ取ることができる。	○	○	○	授業態度 ファイル提出 実技試験 筆記試験
	○略盆御点前 ・袱紗捌き ・席入り ・お茶に関する道具の扱い方 ・お茶の点て方 ・立ち居振る舞い	お茶に関する道具の扱い方、立ち居振る舞いの基本を学ぶことによって、礼儀作法を身につける。	○	○	○	授業態度 ファイル提出 実技試験 筆記試験
	○浴衣の着付け ・浴衣のたたみ方 ・浴衣の着付け ・半巾帯で文庫結び ・半巾帯のアレンジ結び	和服の構成や各部の名称、和装に必要な道具などの知識を習得し、和服の良さを理解し、自分で着付けをすることができるようになる。また、2人組みで着付けることにより、相手にも着付けをすることができる。	○	○	○	授業態度 ファイル提出 実技試験 筆記試験

※3つのグループに分かれ、華道・茶道・着付けの3領域を、ローテーションで実施する。

科目	課題研究	単位	3単位	学年	3年
使用教科書	なし		副教材	なし	

学習の到達目標	生活産業の各分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。
---------	---

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
専門的な知識と技術の定着を図り、考えや研究結果を生活や普段の学習に取り入れて、生かしている。	自ら設定して考え課題を解決し、これまで学習した専門的知識を生かした方法を選択し、創造的に解決する力を身につけ、研究する能力を身につけている。	計画に沿って、課題を解決する力の向上を目指し自ら学び、主体的にかつ協働的に、調査、実験、研究を進めている。

年間の学習計画（実習）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	調査・実験・研究	○オリエンテーション 食物に関する分野から自分の興味関心を深めたいものを決定する。 ○個別課題設定、 研究を深めるための実験・実習など課題を設定する。 ○実施計画の立案 課題解決のため、どのように順序立て学習を進めていくか検討する。 ○研究活動の中間報告 研究の状況を中間報告し、今後の計画を再確認する。	○ ○	 ○	 ○	・コンクール応募 ・提出物 ・出席 ・平常点
2	調査・実験・研究	○実施計画の再立案 計画に沿って研究を深め、専門的な知識と技術の定着を図る。 ○まとめ及びプレゼンテーション準備、資料作成 自ら課題を決めて1年間研究してきた内容をレポートとプレゼンテーションにまとめ、整理する。	 ○	○ ○	○ ○	・コンクール応募 ・こどもの森（食育講座）取組 ・提出物 ・出席 ・平常点
3	発表	○冊子作成 個人でA4サイズ1～2枚程度にまとめたレポートをあわせて冊子にする。 ○課題研究発表会 プレゼンテーションと冊子を用いて発表し、互いに学びあう。	○	○	○	・提出物 ・レポート ・研究発表会 ・出席 ・平常点

科目	食文化	単位	1単位	学年	3年
使用教科書	新調理師養成教育全書 4 調理理論と食文化概論				

学習の到達目標	食生活の成り立ちと多様性、国際化による日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得し、調理師として食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を身につける。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 日本や外国の食文化について理解している。 食文化における調理師の役割を理解し、これからどんな自覚をもっていけば良いのかを理解している。 日本や世界の食文化を理解し、自分の食生活に取り入れ、応用して新たな料理を創造することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や郷土の食文化を理解し、伝承することができる。 新しい食文化を創造するという自覚をもって行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度と課題への取り組みが真面目にできている。 日常生活の中で食文化に関する意識を充分にもっている。

年間の学習計画（実習）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第5章 食と文化 (1) 食文化の成り立ち (2) 多様な食文化 (3) 食文化の共通化と国際化	<ul style="list-style-type: none"> 調理師制度の概要を通して、調理師の業務と社会的役割について理解する。 調理師は、給食等の集団の調理や外食産業において、国民の健康増進の一端を担っていることを理解する。 諸外国の代表的な食文化の成り立ちの要因について、気候風土、宗教、風俗・習慣との関わりから考える。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 課題 定期考査 提出物 出席 平常点
2	第6章 日本の食文化 (1) 日本の食文化史 (2) 日本料理の食文化 (3) 行事食と郷土料理 (4) 現代の食生活と未来の食文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食生活の変遷について、各時代の特徴を理解する。 現代の食環境を見つめ、さらに未来の食生活へも目をむけて、日常食、行事食、郷土料理の文化的、歴史的な側面を考えるとともに、伝統的な食生活の変容に伴う問題点についても考える。 日本料理の各料理様式の流れや特徴を理解するとともに、基本的な食事の作法を身に付ける。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 課題 定期考査 提出物 出席 平常点
3	第7章 世界の料理と食文化 (1) 西洋料理の食文化 (2) 中国料理の食文化 (3) その他の料理の食文化	<ul style="list-style-type: none"> 今日の日本の食生活を彩るさまざまな国の料理を西洋料理・中国料理・エスニック料理に大別し、それぞれの変遷・食材料、料理・料理様式、食事作法などの特徴について理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 課題 定期考査 提出物 出席 平常点

科目	調理	単位	4単位	学年	3年
使用教科書	新調理師養成教育全書6総合調理実習 新調理師養成教育全書5調理実習 新調理師養成教育全書4調理理論と食文化概論		副教材等	オールガイド食品成分表, 実習プリント, 学習プリント	

学習の到達目標	<p>「調理」で学習した調理理論と調理の基礎技術を基に、様式別調理、集団調理、個人調理などに関する高度な知識・技術の習得と定着、及び将来の調理師としての資質の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外部講師による高度な調理の知識・技術を習得する。 2 集団調理の社会的役割と責任を理解し管理と運営、食事環境とサービスなどに関する専門的な知識と技術を習得する。 3 社会的役割と責任を理解し管理と運営、食事環境とサービスなどに関する専門的な知識を習得する。 4 調理師として、食環境の変化や外食産業などの進展に対応し、食生活の充実・向上を図るとともに、創造的に調理する能力と実践的な態度を身につける。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技術	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
調理理論、調理実習に関する知識と実技の関連を持ちながら理解しているとともにテーマに沿った調理や、料理を提供する上で、食卓作法、食事環境整備や接客サービスに係る技能を身に付けている。	対象に応じた行事食の献立作成や、調理理論を理解した上で調理実技に応用する力や高度な知識・技術の習得と定着と、将来の調理師としての自覚を持ちながら調理実践する力を身に付けている。	実習時の衛生面への心構えが身に付き課題について、意欲的に取り組みながら衛生面や役割分担において主体的に取り組み、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

年間の学習計画（理論）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	[3] 接客サービス 1 求められるサービス 2 接客サービスの基本	・食事のおいしさには、客席の形式、照明、テーブルセッティング、食卓花、音楽などの環境に関わることを理解し、よい食事環境整備ができるようにする。	○	○	○	提出物 出席 平常点 定期考査
2	3 接客実務 4 食卓の演出 5 クレーム対応	・料理を提供する上でサービスが重要であり、そのためには席次や食卓作法の基本を踏まえて行い、身だしなみ、気配り、接客態度などが重要であることを理解し、サービスの向上ができるようにする。	○	○	○	
3	[4]飲食店開業計画 1 調理師とフードビジネス 2 飲食店の開業	・飲食店の開業に必要な心構えや知識を理解する。	○	○	○	

年間の学習計画(調理)

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・集団調理実習 ・外部講師による調理 ・各様式による供応食の調理 ・基本料理の技術習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団調理における献立作成、栄養管理、食品管理、衛生管理、作業管理、経済管理など、総合的な集団調理の実習を生徒主体で行うことにより、調理師として必要な知識・技術を習得する。 ・外部講師による授業において高度な技術や知識の習得のために主体的かつ協働的に取り組む。 ・一般的な献立の日常食および供応食(行事食)実習を通して、調理技術の向上と実践力を身につける。 	○	○	○	提出物 出席 技術評価 定期考査
2	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭食物バザー献立 ・保護者への感謝の集い献立 ・各様式による供応食の調理 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭は日常食についての学習の成果の発表と集団調理実習の機会とする。 ・一般的な献立の日常食および供応食(行事食)実習を通して、調理技術の向上と実践力を身につける。 ・保護者に3年間の学習の成果を披露する。献立作成、食材調達、調理、テーブルセッティング、BGM等の食事環境整備、給仕、会の進行など、主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	
3	<ul style="list-style-type: none"> 【個人】 ・卒業製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の総まとめとして、テーマにそった、各自の作品を製作し、評価する。 	○	○	○	

科目	栄養	単位	1	学年	食物科 3年
使用教科書	新 調理師養成教育全書 必修編2 食品と栄養の特性(全国調理師養成施設協会)		副教材 等	カラーグラフ成分表(実教出版)	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第3章 エネルギー代謝と食事摂取基準 (1) エネルギー代謝 (2) 日本人の食事摂取基準	<ul style="list-style-type: none"> ・人体エネルギー代謝の概要や食品のもつエネルギー、基礎代謝、生活活動に伴うエネルギー代謝について復習する。 ・食事摂取基準及び栄養状態の観点から課題を発見し、解決するための知識を身につける。 ・ライフステージにおける身体的・生理的特徴を理解し、それに応じた栄養の特徴と食事の概要について理解する。 ・乳幼児期、学童期の栄養について理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
2	(3) 食品の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・食品標準成分表の使い方について理解し、活用できるようになる。 ・食品分類法を理解し、活用できるようになる。 ・食事バランスガイドを理解し、適切な献立を立てることができるようにする。 ・青年期、成人期、高齢期の栄養について理解する。 ・妊娠・授乳期の栄養、生活習慣病の予防、加齢に伴う栄養の問題など特殊な身体の状態を考えた栄養管理をする為の知識を身につける。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
3	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養学の総まとめをする。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント

科目	食品	単位	1	学年	食物科 3年
使用教科書	新調理師養成教育全集 2 食品と栄養の特性 (全国調理師養成施設協会)		副教材等	オールガイド食品成分表 (実教出版)	

学習の到達目標	食品の分類とその特徴、食品の表示、食品の加工と貯蔵などに関する知識と技術を習得し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を図る能力と態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a, 知識・技能	b, 思考・判断・表現	c, 主体的に学習に取り組む態度
調理師として食品についての情報を収集し、調理に生かせる知識・技能を身につけている。	食品の特徴をとらえて調理に活用したり、食材の組合せや食材の選択する方法などを理解した上で、どう選択するかなどの能力を身につけている。	授業に対して真面目に取り組む態度が身についている。また、食生活に関するニュースに関心を持ち、課題解決に主体的に取り組むことができ、振り返って改善しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第4章 食品の特徴と性質 第3節 その他の食品 (4) 調味料および香辛料類 (5) 調理加工食品類 (6) ゲル状食品	・代表的な食品を中心に、栄養的特徴や調理上の性質、利用法などを理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
2	(4) 乳類 第3節 その他の食品 (1) 油脂類 (2) 菓子類 (3) 嗜好飲料類 (4) 調味料および香辛料類 (5) 調理加工食品類 (6) ゲル状食品 第5章 食品の加工と貯蔵 第1節 食品の加工 (1) 食品の加工の目的 (2) 食品の加工法 (3) 微生物の利用 第2節 食品の貯蔵 (1) 食品の貯蔵の目的 (2) 食品の貯蔵法	・代表的な食品を中心に、栄養的特徴や調理上の性質、利用法などを理解する。 ・食品の加工の目的とその加工法、食品の貯蔵の目的とその貯蔵方法について学び、それぞれの特徴を理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
3	第6章 食品の生産と流通 第1節 食品の国内生産と輸入 (1) わが国の食品の生産 (2) 海外から輸入される食品 第2節 食品の流通 (1) 食品の流通の仕組み (2) 各食品の流通経路	・食品がどのような経路をたどって食卓に届けられるを知り、生産や輸入、食品の流通の仕組みについて理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査

科目	食品衛生	単位	3	学年	食物科 3年
使用教科書	新調理師養成教育全集 必修編 3 食品の安全と衛生 (全国調理師養成施設協会)		副教材等	学習プリント	

学習の到達目標	食生活の安全と食品衛生対策など、食品衛生に関する専門的な知識と技術を習得し、調理師として安全で衛生的な食生活に寄与する能力と実践的な態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
食品衛生について理解するとともに、食品衛生について日常における情報の収集と整理ができる技術を身につけている。	食品衛生に関する知識に基づいた適切な判断ができ、係る問題の中の課題を設定し食品の安全を守る職業人として問題解決する能力を身につけている。	食生活の安全について、その中から食品衛生に関する課題を解決し、より安全な生活を実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第5章 飲食による健康危害 7 寄生虫による食中毒 8 経口感染症 9 食物アレルギー 10 その他の健康危害	<ul style="list-style-type: none"> 安全な食品を提供するために、食中毒統計の分類に準じた分類、食中毒の特徴、発生状況と原因物質、原因食品、症状、それらの予防法などについて理解し、衛生管理の重要性を認識する。 飲食物による健康危害種類や経口感染症種類、人間以外の動物の感染症や食物アレルギーなど、食の安全を脅かす要因とその予防について理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査
	第4章 器具・容器包装の衛生 1 器具・容器包装の概要 2 材質の種類	<ul style="list-style-type: none"> 食品衛生法にある器具・容器包装に関する規定を中心に、器具・容器包装の主な材質の特徴と規格基準について理解する。 	○	○	○	

2	<p>第6章 食品安全対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食品安全対策とは 2 食品安全対策にかかわる法律 3 食品安全行政 4 食品安全情報の共有 5 食品調理施設・設備の安全対策 6 調理従事者の健康管理 7 調理作業時における安全対策 8 自主衛生管理 HACCP 9 食品事故対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品を衛生的に取り扱い、飲食物に起因する健康障害を予防する為の方策として、食品衛生法とこれに基づいた行政について理解する。 ・ 食品衛生の最大の目的は、食の生産から消費までのすべての段階における安全確保であることを学び、調理師として自らの役目を正しく理解し、調理施設における衛生管理が適切に行えるようにする。 ・ HACCP の概念とその概念に基づいた「総合衛生管理製造過程の承認制度」について理解する。 ・ 食品衛生法にある器具・容器包装に関する規定を中心に、器具・容器包装の主な材質の特徴と規格基準について理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査
3	<p>第7章 食品衛生学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 野菜類の鮮度判定 2 食品の PH 測定 3 生卵の鮮度判定 4 魚介類鮮度判定 5 魚肉練り製品の鮮度判定 6 食肉の鮮度判定 7 牛乳の鮮度班別 8 食品内部の温度の測定 9 手指洗浄前・洗浄後の汚れ状態の検査 10 調理器具の汚れ状態の検査 11 食器洗浄後の汚れ状態の検査 12 水道水の残留塩素測定 13 空中浮遊微生物の測定 14 食品からの各種細菌の検出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の実験を通して、食品衛生を身近に感じ、食品衛生は調理師にとって最も重点を置くべきポイントのひとつであることを理解し、徹底した衛生管理の重要性を再確認する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査

科目	公衆衛生	単位	1	学年	食物科 3年
使用教科書	新 調理師養成教育全書 1		副教材等	なし	

学習の到達目標	労働と健康や環境衛生など、公衆衛生に関する知識を習得し、調理師として必要な食中毒の防止など疾病の予防と健康づくりに寄与する能力と態度を身につける。
---------	---

評価の観点		
a, 知識・技能	b, 思考・判断・表現	c, 主体的に学習に取り組む態度
健康づくりや環境、飲食による健康危害について理解するとともに、日常生活において環境保全や健康管理のための対策を、実践する技能を身に付けている。	調理師として、疾病の予防と健康づくりに課題を設定し、解決策を構想し考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	様々な公衆衛生活動や課題解決への取り組み、改善などで地域社会に参画するとともに、生活の充実と向上を図るための実践をしようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	新 調理師養成教育全書1 第5章 労働と健康 (1) 労働と健康 (2) 調理師の職場環境	<ul style="list-style-type: none"> 職場の環境や作業条件が健康に及ぼすことを理解し、調理師の職場環境の現状や労働保健の重要性を理解する。 生活環境と人の関わり、現代の生活環境の実態について理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
2	第6章 環境と健康 (1) 生活環境 (2) 環境条件 (3) 環境汚染とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 大気、水、住居、廃棄物、放射線など生活環境の構成要素の現状と対策について理解する。 環境汚染の現状と循環型社会の形成に向けた方策について理解し、自分に出来る環境保全について考える。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
3	第3章 健康づくり (1) 健康づくり対策 (2) 心の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 我が国における健康作り対策の基本的姿勢や現状について理解し、自己の健康づくりについて理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント

科目	成人看護	単位	2単位	学年	衛生看護科 3学年
使用教科書	『看護学入門 8 成人看護Ⅰ』『看護学入門 9 成人看護Ⅱ』『看護学入門 10 成人看護Ⅲ』『看護学入門 7 基礎看護Ⅲ特論治療法概論』 (メヂカルフレンド社)			副教材等	症状別看護ケア関連図 疾患別看護ケア関連図

学習の到達目標	<p>(1) 成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技術	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 成人の生活や健康の特徴について考え、機能障害のある生活者の健康の保持増進、回復へ向けた看護の展開を理解している。 身体のそれぞれの機能の役割、日常生活の制限や治療にかかわる看護に必要な基礎的基本的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を用いたグループワークにおいて、意見交換をし、自分の考えを話すことができる。 健康に障害をもつ患者の疾患等を学習し、必要な看護援助の思考を深め、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 成人の心身、生活、保健及び疾病について関心を持ち、日常生活と密接に関係のある疾患の学習に意欲的に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 成人の健康と看護	社会の変化に伴う成人の生活と健康の現状、	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 各課題プリント 各確認(小)テスト ノート提出 定期考査 授業態度
	2 健康レベルや障害の状況に応じた看護	成人を取り巻く多様な状況の理解を深め、成人の特徴を理解する。※各期については小児で取り扱う。				
	3 機能障害のある患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> 様々な健康レベルの人や障害がある人の看護について、実践的・体験的な学習活動を通じて知識と技術を習得し、対象に応じた実践ができる。 				
	ア 呼吸機能障害	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器の構造と機能の理解を基に、肺がん等、主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。 				
	イ 循環機能障害	<ul style="list-style-type: none"> 心不全、不整脈等、主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査時及び治療時の看護を理解する。 				
	ウ 消化・吸収機能障害	<ul style="list-style-type: none"> 胃がん、大腸がん等、主な疾患を持つ人を取 				

		り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え必要な検査や治療時の看護を理解する。				
2	エ 栄養代謝機能障害	・肝がん等の主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度
	オ 内部環境調節機能障害	・糖尿病、腎不全等の主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントの理解に加え、必要な検査や治療時(血液透析)の看護を理解する。(糖尿病は健康支援と社会保障制度で取り扱う)				
	カ 内分泌機能障害	・甲状腺がん等の主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。				
	キ 身体防御機能障害	・白血病等、主に疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。				
	ク 脳・神経機能障害	・脳血管障害、脊髄損傷等、主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害(高次機能障害等)の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。				
	ケ 感覚機能障害	・白内障・緑内障・メニエール病等、主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。				
3	コ 運動機能障害	・椎間板ヘルニア等、主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時(牽引・ギプス)の看護を理解する。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度
	サ 排泄機能障害	・排泄機能障害(腎・尿路結石、膀胱がん等)、主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。				
	シ 性・生殖・乳腺機能障害	・前立腺肥大等の主な疾患を持つ人を取り上げ、機能障害の原因と症状、アセスメントに加え、必要な検査や治療時の看護を理解する。 (女性の性・生殖・乳腺機能障害は母性看護で取り扱う)				

科目	小児看護	単位	2単位	学年	衛生看護科3年生
使用教科書	『看護学入門1 2 母子看護 小児の看護』(メヂカルフレンド社)		副教材等		

学習の到達目標	<p>(1) 小児看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 小児看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 小児看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、小児の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技術	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
小児の看護に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、小児の看護の意義や役割を理解する。 小児看護に関する基礎的・基本的な知識を用いて、小児の観察や日常生活の基本的援助ができる。	小児の特質、生活、保健についての諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、小児看護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	小児の特質、生活、保健に関心を持ち、よりよい小児看護を目指して主体的に取り組もうとする態度を身につけている。グループ学習に積極的に参加し、メンバーと協力して学習に取り組むことができる。提出物の提出期限を遵守することができる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 小児の健康と看護 (1)小児看護の特徴 (2)小児の保健と福祉 (3)小児看護の特徴 (4)小児看護の倫理的課題	<ul style="list-style-type: none"> 小児の特徴と小児の健康を保持・増進するための看護の役割を理解する。 小児看護の変遷、小児を巡る諸問題について、社会的状況の動向と関連させながら考え、小児看護の在り方について理解する。 ※予防接種・感染症は健社で取り扱う。 小児保健の現況と動向について理解する。 また、地域の母子保健サービスや社会資源について理解する。 統計資料を扱い、改善されてきた課題や現在の課題について理解する。主な法規や制度を理解する。 ※・最新の統計資料を用いる。 権利擁護・虐待・いじめなどの心身の健康問題を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 各課題プリント 各確認(小)テスト ノート提出 定期考査 授業態度

2	<p>2 小児各期の健康課題と看護</p> <p>(1) 新生児期・乳児期</p> <p>(2) 幼児期</p> <p>(3) 学童期</p> <p>(4) 思春期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児期、幼児期、学童期及び思春期における心身の発達の特徴とそれに影響を及ぼす因子について学習し、各期の小児の看護について理解する。 ※・小児の各期における成長・発達についてビデオ視聴を通して、イメージしやすくする。 ・モデル人形を用いて、沐浴、調乳、計測等の実習を行う。(母性看護と合わせて) ・ 小児の成長・発達に伴う家族の役割の変化とその影響について理解する。 ・ 発達段階に応じた生活習慣の自立過程を理解し、養護の大切さについて認識する。 ・ 成長・発達に応じた栄養と食事、排泄、睡眠、身体の清潔、遊び及び生活環境等について理解する。 ・ 小児に対するしつけや生活指導及び親に対する育児指導について理解する。 ・小児の発達や成長に合わせた遊びについて学ぶ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度
3	<p>3 診療を受ける小児の看護</p> <p>(1) 診療に伴う看護</p> <p>(2) 急性期</p> <p>(3) 慢性期</p> <p>(4) 終末期</p> <p>4 遺伝と先天異常免疫機能の障害感覚機能障害</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の診療時の安全確保とその重要性、不安や緊張を緩和する工夫について扱う。 ・成人期・老年期を含めて各健康段階にある対象の身体的・心理的特徴を理解し、各期の経過にある小児と家族の特徴、全身管理などを理解する。 ※「疾病の成り立ちと回復の促進」「成人看護」の内容を取り扱う。 自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫低下、中耳炎など。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度

科目	母性看護	単位	2単位	学年	衛生看護科3年生
使用教科書	看護学入門 12 母子看護 母性の看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等		

学習の到達目標	<p>(1) 母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 母性看護について、よりよい看護実践について自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技術	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決しようとしている。	母性看護について、よりよい看護実践について自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 母性の健康と看護 ア 母性看護の意義 イ 母子の保健の動向 ウ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ エ 母性看護の特徴 オ 母性看護の倫理的課題	・母性看護の基本となる概念を学習し母性についての考え方、母子保健の現状 母性看護に関わる倫理的課題の現状について理解を深める。母性看護に関わる倫理的課題について取り上げ、他者への共感や思いやり人権擁護の重要性など多様な視点から考察する学習活動を取り入れる。	○	○	○	・各課題プリント ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度 ・ディベート(取り組み・態度)
	2 女性のライフサイクル各期の健康課題と看護 ア 思春期 イ 成熟期 ウ 更年期 エ 老年期	・ライフサイクル各期における母性の発達の特徴と健康課題の学習を通して、女性の全人的な健康に必要な支援について実践できるように学習する。	○	○	○	・各課題プリント ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度

2	<p>3 周産期の看護</p> <p>ア 周産期の正常な経過と看護 (ア) 妊娠期の生理と妊婦の看護</p> <p>(イ) 分娩期の生理と産婦の看護</p> <p>(ウ) 産褥期の生理褥婦の看護</p>	<p>・妊娠に伴う母体の生理的な変化とそれによって生じる日常生活上の問題や家族の機能について理解する。また、妊婦の日常生活を円滑にするための看護の方法について学習する。(妊婦体験)</p> <p>・分娩に伴う母体の生理的な変化と分娩過程及びそれによって生じる問題について理解する。また、産婦の看護の方法について学習する。</p> <p>・産褥期の母体の生理的な変化とそれによって生じる日常生活上の問題や家族の機能について理解し、褥婦の看護の方法について学習する。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度 ・演習振り返りシート
3	<p>3 周産期の看護</p> <p>(エ) 新生児期の生理と看護</p> <p>○性・生殖・乳腺機能障害</p>	<p>・新生児の生理について理解し、新生児の看護に関する基本的な知識と技術を習得し、この時期の観察の重要性や看護の役割を知る。 (沐浴、新生児計測、抱っこ、おむつ交換を演習で行う)</p> <p>・女性の性・生殖器の構造と機能の理解をもとに乳がんや女性生殖器疾患の主な疾患や検査治療について学習する。 ※成人看護の範囲分を行う。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度 ・演習振り返りシート

科目	在宅看護	単位	2単位	学年	3年生
使用教科書	『地域・在宅看護論』 メヂカルフレンド社		副教材等	映像で感じ、考えるこれからの 在宅看護論 DVD	

学習の到達目標	<p>(1) 在宅看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>(2) 在宅看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 在宅看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、在宅療養者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技術	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・在宅看護の特徴、地域在宅看護の対象、制度、療養者や家族への支援について理解しているか。	・在宅看護の対象について基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見出すことができたか。	・在宅看護について自ら学び、在宅療養者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができたか。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 在宅看護の特徴 ア 在宅看護の意義 イ 在宅看護の役割と機能 ウ 在宅看護の対象	1) 地域在宅看護が必要とされる背景を知り、住み慣れた地域で療養する人々を支える在宅看護の役割や機能を理解する。 2) 地域在宅看護に必要な概念を理解する。 ・地域包括ケアシステムと公助・共助・自助・互助における看護師の役割 ・地域医療構想 [DVD 地域在宅看護論 1巻] 3) 地域在宅看護の対象の暮らしや住み慣れた地域の環境を理解する。 ・学校のある「地域」の理解 [フィールドワーク①・マップ作り] ・在宅療養を支える家族を理解する。 ・家族システム理論からみる家族の理解と看護 ・家族周期説からみる家族の理解と看護	○	○	○	・定期考査 ・提出課題の内容 ・課題の提出状況 ・発表内容や仕方 ・授業態度 * 地域の地図作成
2		・地域在宅看護の対象は幅広い年齢層であることを理解し、幅広い健康レベルを対象とした看護であることを理解する。 [フィールドワーク②小児・高齢者対象] ・健康障害がある人もそうでない人も地域で暮らし続けるために必要なことを考える *1				*エコマップ・ジェノグラムの作成 *1レポート

	<p>2 在宅を支える制度</p> <p>ア 地域包括ケアシステム</p> <p>イ 訪問看護制度</p> <p>ウ 医療保険制度</p> <p>エ 介護保険制度</p>	<p>・地域在宅看護が関わる療養の場〔サービスなど〕や、家族自身のケアの担い手としての支援について理解する</p> <p>1) 地域在宅看護を支える制度を理解する。</p> <p>・事例で考える「地域」でその人らしく暮らすために活用できる社会資源</p> <p>・生活保護/権利擁護/障害者福祉/各種保険</p> <p>2) 地域・在宅看護が関わる療養の場</p> <p>・通所型サービス/施設サービス/地域密着型サービス 【DVD 地域・在宅看護論5巻】</p>	○	○	○	<p>・定期考査</p> <p>・提出課題の内容</p> <p>・課題の提出状況</p> <p>・発表内容や仕方</p> <p>・授業態度</p>
3	<p>3 在宅療養者と家族等への支援</p> <p>ア 療養生活の援助</p> <p>イ 治療に伴う援助</p> <p>ウ 療養者の状況に応じた看護</p>	<p>1) 地域・在宅で生活する対象の健康問題と看護の支援について理解する。</p> <p>・エンド・オブ・ライフケア/難病ケア/慢性疾患管理/介護予防/精神障害ケア/小児ケア</p> <p>2) 地域・在宅看護で実際に行う援助技術や支援方法について理解する。</p> <p>*生活を支える技術について次の項目は演習を実施する。①排泄の援助②清潔援助③移乗・移動の援助④日常の事故防止・予防</p>	○	○	○	<p>・定期考査</p> <p>・提出課題の内容</p> <p>・課題の提出状況</p> <p>・発表内容や仕方</p> <p>・授業態度</p>

科目	看護臨地実習	単位	6単位	学年	衛生看護科3学年
使用教科書	専門教科の全教科書		副教材等		

学習の到達目標	<p>(1) 臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技術	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 臨地における看護について、対象の疾患・個別性を捉えた上でどのような援助が必要かを理解し、知識・技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨地において、対象の疾患・特性やよりよい援助について思考を深め、看護上の問題点を抽出し、看護の展開ができる。 実習目標を明確に持ち、指導者に適切に報告、相談をしている。 事前・事後に学習したことを記録することができる。 臨地での学びを毎日日誌に記録したり、リフレクションできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象に対して関心を寄せ、対象を尊重した態度で接している。 見学や援助参加の希望を申し出て、主体的に取り組もうとしている。 臨地における看護実践の基礎について自ら学び、よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
	1 基礎看護臨地実習 (1) 日常生活の援助	<ul style="list-style-type: none"> 対象の基本的欲求の充足状況や日常生活行動の自立の程度を踏まえ、援助の選択と実施について学ぶ。 対象の安全・安楽に配慮し、自立を目指した日常生活の援助の方法について学ぶ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 実習日誌、実習後終了レポートの提出
	(2) 看護の展開①	<ul style="list-style-type: none"> 対象の身体的・精神的・社会的特徴について理解し、健康障害に伴う病期に応じた看護の目的や特質について理解を深める。また、それぞれの患者の特性に合わせた日常生活の援助の方法について体験を通して理解し、患者 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 患者記録 データベース アセスメントシート 使用薬剤 検査データ 関連図

		及び家族に対する心理面の理解と支援も大切であることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 受持患者の看護を通して、看護過程を理解し、看護問題を抽出する。 (3学期の臨地実習までに1事例の事例展開の演習を行う) 	○	○	○	問題点リスト ルーブリック評価表
2. 看護臨地実習	(1) 日常生活の援助	<ul style="list-style-type: none"> 対象を科学的な視点で観察し、対象の自立や生活の質の向上を目指す方法について援助計画を立案、実施し、またその結果を評価するといった一連の流れを行う。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 患者記録 データベース アセスメントシート 使用薬剤 検査データ 関連図 問題点リスト 看護計画 実施・評価 ルーブリック評価表
	(2) 看護の展開②	<ul style="list-style-type: none"> 受持患者の看護をとおして、看護過程を理解し、看護問題を抽出する。 看護問題解決のために必要な看護計画を立案する。 看護計画に沿った、日常生活の援助や診療の援助を行い、患者が必要とする看護を行う。 看護計画および実施内容を評価する。 				

科目	看護情報	単位	2単位	学年	衛生看護科 3学年
使用教科書	『高等学校 情報1』(第一学習社) 『看護・医療系のための情報科学入門』 (サイオ出版)		副教材等	Life is Tech! Lesson	

学習の到達目標	<p>(1) 看護の実践に必要な保健医療福祉に関わる情報と個人情報及び、それらを実際の看護で活用するための知識と技術を身につける。</p> <p>(2) 多職種で共有する情報と情報活用に関する課題について、関連する法・制度、情報セキュリティ、看護の職業倫理を踏まえて解決する力を養う。</p> <p>(3) 情報の管理や取扱いに責任をもち、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a 知識・技術	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 看護におけるコンピュータ利用の目的と意義、情報の収集と加工及び情報に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。 高度情報化社会における基本的なルールを守って情報を活用することを理解している。 コンピュータによる情報処理の基本的な知識と技術を理解している。 看護・医療活動における情報処理技術の利用及び個人情報のセキュリティの実際について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報モラルとセキュリティ管理について思考を深めデータ分析し、コンピュータを用いて適切に判断し表現している。 高度情報化社会におけるコンピュータ利用について基本的なルールを守り適切に活用している。 情報活用を行い、データ分析し内容を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度情報化社会におけるコンピュータの役割について関心を持ち、看護・医療の中でのコンピュータ活用について理解しようとする態度を身に付けている。 コンピュータに関する技術習得に意欲的に行っている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	2 看護における情報の活用と管理 (1) 保健医療福祉分野の情報 (2) 情報システムの特徴 【1学期の看護臨地実習までにサイオ出版を中心に「2 看護における情報の活用と管理」について学習する】	<p>(1) 看護の対象の様々な個人情報を連携・協働する多職種と共有する現状について学ぶ。</p> <p>(2) 保健医療福祉分野における情報システムとして、個人情報ははじめ、様々な情報を多職種と共有し、健康支援に適切かつ効果的に活用している現状について、臨地実習などの事例を用いて理解する。療養の場の多様性に応じたシステムの特徴、実務における情報セキュリティと関係法規について学ぶ。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業で使用するプリントの記録状況 提出レポート 発表内容や仕方 文書作成ソフトウェアによるレポート作成 (臨地実習後) 症例をまとめ、プレゼンテーションソフトで発表する。

	<p>(3)情報の活用</p> <p>(4)情報の管理</p> <p>【臨地実習後、第一学習社とLifeisTech! Lessonを中心に学習する】</p> <p>1 情報社会の倫理と責任</p> <p>(1) 情報社会の特徴</p>	<p>(3)健康問題の発見から解決の過程において、多職種が発信する情報を互いに適切にかつ効果的に活用することを学ぶ。看護の対象の情報提供の現状を理解する。</p> <p>(4)看護業務として個人情報を取り扱う場合は、守秘義務及び個人情報保護法を遵守しなければならないこと、使用する情報システムは現状に応じたセキュリティ対策を講じなければならないことを理解する。</p> <p>(1)情報社会の現状と課題を学ぶ。日常生活における情報通信ネットワーク等の活用方法とともに、個人情報の漏洩や著作権の侵害などの事例から考える。</p>				
2	<p>(2)情報社会の倫理</p> <p>(3)情報を扱う個人の責任</p> <p>3 看護における課題解決</p> <p>(1) 課題に応じた情報収集</p> <p>(2) 情報分析と解決方法</p>	<p>(2)多様なコミュニケーション手段の特徴を踏まえて適切に活用することや、個人と世界が直接つながる情報社会における倫理観の醸成の重要性について理解する。</p> <p>(3)個人による不適切な情報発信や情報管理の影響が拡大し、情報を扱う個人に大きな責任が生じている現状を理解する。情報発信や漏洩が、刑事罰や民事罰及び賠償の対象ともなることを関係法規とともに理解する。</p> <p>(1)看護における課題に応じた情報収集の視点(信頼性、標準性、公平性、国際性など)と収集の方法(文献検索、統計資料など)を学ぶ。</p> <p>(2)課題に応じた情報の分析と解決方法として、統計処理の手法やモデル化、シミュレーション、プログラミングなどを理解する。思考過程をアルゴリズムで整理する学習活動を行う。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度 ・実習の態度 ・主として講義やコンピュータを用いた実習を通して学習する。 ・表計算ソフトウェアによる表作成とその活用
3	<p>(3)情報の発信方法</p>	<p>(3)課題に応じた情報の発信方法として、対象や内容に応じた情報デザインやプレゼンテーションを考察し、発表する学習活動を行う。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・作品の完成状況 ・授業態度 ・主として講義やコンピュータを用いた実習を通して学習する。

入学年度			令和6年度入学						備 考
学 年			1	2		3		計	
教 科	科 目	標準 単位		服飾 文化 類型	保育 教養 類型	服飾 文化 類型	保育 教養 類型	服飾 文化 類型	保育 教養 類型
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2				2	
		言語文化	◎2	2				2	
		文学国語	4		2		2	4	
	地理歴史	地理総合	◎2				2	2	
		歴史総合	◎2		2			2	
	公 民	公 共	◎2	2				2	
	数 学	数学 I	◎3	3				3	
		数学 A	2		2			2	
		数学 B	2				2	2	
	理 科	科学と人間生活	◎2	2				2	
		化学基礎	2				2	2	
		生物基礎	◎2		2			2	
	保健体育	体 育	◎7~8	2	2		3	7	
		保 健	◎2	1	1			2	
	芸 術	音 楽 I	○2		ㄗ			ㄗ	「芸術」 I を履修後に同科目の II を履修する
		音 楽 II	2				ㄗ	ㄗ	
		美 術 I	○2		ㄗ2			ㄗ2	
		美 術 II	2				ㄗ2	ㄗ2	
		書 道 I	○2		ㄗ			ㄗ	
		書 道 II	2				ㄗ	ㄗ	
	外 国 語	英語コミュニケーション I	◎3	3				3	
英語コミュニケーション II		4		4			4		
論理・表現 I		2				2	2		
家 庭	家庭総合	◎4	4				4		
情 報	情報 I	2						「情報 I」2単位は「生活産業情報」で代替	
科目単位数計			21	17		15	53		
教 科	科 目	標準 単位							
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	家 庭	生活産業基礎	◇2	2				2	
		課 題 研 究	◎◇2~4			1	2	3	
		生活産業情報	◎2~4	2		3		5	
		消 費 生 活	2~4				2	2	
		保育基礎	2~6	2		2		2	6
		保育実践	2~8			4		6	10
		ファッション造形基礎	2~6	2	4			6	2
		ファッション造形	4~10				8	8	
		服飾手芸	2~4		2			2	
		フードデザイン	2~6			2		2	
		*生活文化	2~6				2	2	*は学校設定科目
科目単位数計			8	12		14	34		
総探	総合的な探究の時間	3~6						「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替	
合 計			29	29		29	87		
特活	ホームルーム活動		1	1		1	3		
週 当 た り 総 時 数			30	30		30	90		

入学年度			令和6年度入学				備考
学 年			1	2	3	計	
教 科	科 目	標準 単位					
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2
		言語文化	◎2	2			2
		文学国語	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	◎2			2	2
		歴史総合	◎2		2		2
	公 民	公 共	◎2	2			2
	数 学	数 学 I	◎3	3			3
		数 学 A	2		2		2
		数 学 B	2			2	2
	理 科	科学と人間生活	◎2	2			2
		化学基礎	2			2	2
		生物基礎	◎2		2		2
	保健体育	体 育	◎7~8	2	2	3	7
		保 健	◎2	1			1
	芸 術	音 楽 I	○2	ㄗ			ㄗ
		美 術 I	○2	ㄗ2			ㄗ2
		書 道 I	○2	ㄗ			ㄗ
	外 国 語	英語コミュニケーション I	◎3	3			3
英語コミュニケーション II		4			4	4	
論 理・表 現 I		2		2		2	
家 庭	家庭基礎	◎2	2			2	
情 報	情報 I	2					
科目単位数計			21	12	15	48	
教科	科 目	標準 単位					
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	家 庭	生活産業基礎	◇2	2			2
		課題研究	◎◇2~4		1	3	4
		生活産業情報	◎2~4		2		2
		食文化	1~2			1	1
		調理	14	5	5	4	14
		栄養	3	1	1	1	3
		食品	2		1	1	2
		食品衛生	5		2	3	5
		公衆衛生	◎3		2	1	3
総合調理実習	3		3		3		
科目単位数計			8	17	14	39	
総探	総合的な探究の時間	3~6					
合 計			29	29	29	87	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週 当 たり 総 時 数			30	30	30	90	

「保健」1単位は「公衆衛生」で代替

「情報 I」2単位は「生活産業情報」で代替

教育内容「調理理論と食文化概論」に対応

教育内容「調理理論と食文化概論」「調理実習」に対応

教育内容「食品と栄養の特性」に対応

教育内容「食品と栄養の特性」に対応

教育内容「食品の安全と衛生」に対応

教育内容「食生活と健康」に対応

「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替

入学年度			令和6年度入学				備考
学年			1	2	3	計	
教科	科目	標準単位					
各学科に共通する各教科・科目	国語	現代の国語	◎2	2			2
		言語文化	◎2	2			2
		文学国語	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	◎2			2	2
		歴史総合	◎2		2		2
	公民	公共	◎2	2			2
	数学	数学Ⅰ	◎3	3			3
		数学A	2		2		2
		数学B	2			2	2
	理科	科学と人間生活	◎2	2			2
		化学基礎	2			2	2
		生物基礎	◎2		2		2
	保健体育	体育	◎7～8	2	2	3	7
		保健	◎2	1			1
	芸術	音楽Ⅰ	○2	㇀			㇀
		美術Ⅰ	○2	㇀2			㇀2
		書道Ⅰ	○2	㇀			㇀
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	3			3
		英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
		論理・表現Ⅰ	2			2	2
家庭	家庭基礎	◎2		2		2	
情報	情報Ⅰ	2					
科目単位数計			19	16	13	48	
教科	科目	標準単位					
主として専門学科において開設される各教科・科目	看護	基礎看護	◇2～11	4	4		8
		人体の構造と機能	◎2～7	4			4
		疾病の成り立ちと回復の促進	2～8		3		3
		健康支援と社会保障制度	2～7		2		2
		成人看護	2～6			2	2
		老年看護	2～4	1	1		2
		小児看護	2～4			2	2
		母性看護	2～4			2	2
		在宅看護	2～4			2	2
		看護臨地実習	◎◇2～21	1	3	6	10
		看護情報	◎2～4			2	2
科目単位数計			10	13	16	39	
総探	総合的な探究の時間	3～6					
合計			29	29	29	87	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週当たり総時数			30	30	30	90	

「保健」1単位は「人体の構造と機能」で代替

「情報Ⅰ」2単位は「看護情報」で代替

「総合的な探究の時間」は「看護臨地実習」で代替